

職能別実務者研修会 「指導と評価」研修会（東日本）実施概要

私立学校職能別実務者研修会「指導と評価」研修会が、平成23年11月12日（土）東京都千代田区の九段センタービルにて開催され、定員を大きく超える109名の参加があった。

まず初めに、環太平洋大学学長で文学博士の梶田叡一氏にご講演をいただいた。演題は「新しい学力観と評価の在り方」で、文部科学省による学習指導要録の改訂について言及された。



基礎・基本を基にした「確かな学力」の重要性、そして「生きる力」、「新しい学力観」など、これからの教育の根幹に関わる重要な事柄を、巧みな話術でわかりやすく解説していただいた。

午後からは、文部科学省初等中等教育局教育課程課担当官、梶山正司氏より「新学習指導要領と教育課程の対応に関する質疑応答」のご講演をいただいた。新学習指導要領によって、教育現場にどのような影響があるのか、具体的な教育課程の編成などにも言及した実践的な講義であった。



次に、日本私学教育研究所の山路進 主任研究員によって、「平成24年度以降の教育課程調査について」と題する解説があった。

この研修会に先立ち、全国私立学校に教育課程表を送付いただき、詳細に調査分析をしているが、その結果をより詳しく解説していただいた。観点別評価や絶対評価について、多くの資料を参照しながら解説をいただいた。



到達度評価の重要性や絶対評価の正しい理解が行われれば、授業内容も変化していくことを指摘し、「評価」というものの学校における重要性を改めて認識させられた。

研修の最後は「研究協議」が行われた。ここまでの研修は、講義や解説を聞くことが主であったが、ここからは少人数のグループに分かれ、各学校における実状報告や問題点の情報交換がなされ、それらへの解決策などが熱心に話し合われた。

（高山博通）